愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	レジャー産業論		
担当者(Instructors)	宮本 佳範	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

現在、社会では生活の質（QOL）やワークライフバランスなどが重視されるようになってきました。そんななか、余暇の過ごし方に注目があつまっています。そして、人々に余暇の楽しみ方を提案するレジャー産業は日本の重要な産業のひとつに成長し、今後も成長が期待できる分野です。そこで、本講義ではレジャーの特性について理解したうえで、各種レジャー産業について、それぞれの歴史、現状と課題などについて、自ら調べ、発表することで理解を深めます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義およびグループワーク（プレゼンテーションを含む）を併用します。グループワークでは、グループ毎にテーマを決め、調べ、発表する流れで行います。パソコンを使います。原則すべて対面で行いますが、必要に応じて７回を超えない範囲でメディア授業を取り入れる場合もあります。受講者数により、下記の内容は若干変更する場合があります。詳しくは初回のガイダンス時に説明するので“必ず”出席すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	本講義で何を学ぶのか説明する。	□
第2回	レジャーとは	レジャーやレジャー産業に関する基本的な定義等について学ぶ。	□
第3回	レジャー産業について	レジャー産業の動向について概要を知る。	□
第4回	日本のレジャー史：戦後～1960年代	戦後～1960年代の社会とレジャーの関係を把握する。	□
第5回	日本のレジャー史：1970年代～1990年代	1970年代～1990年代の社会とレジャーの関係を把握する。	□
第6回	日本のレジャー史：2000年代～現代	2000年代～現代の社会とレジャーの関係を把握する。	□
第7回	登山・トレッキングの現状と課題	登山・トレッキングの動向について概説するとともに、今後の学生による発表のやり方を知る。	□
第8回	各テーマに関する調べ学習(1)：テーマ選定	各グループで興味がある文献を選び、その内容をまとめ、発表する準備を行う。	□
第9回	各テーマに関する調べ学習(2)：概要作成	各グループで興味がある文献を選び、その内容をまとめ、発表する準備を行う。	□
第10回	各テーマに関する調べ学習(3)：完成	各グループで興味がある文献を選び、その内容をまとめ、発表する準備を行う。	□
第11回	テーマ別発表(1)：前半グループ	まとめた内容を発表する。	□
第12回	テーマ別発表(2)：中間グループ	まとめた内容を発表する。	□
第13回	テーマ別発表(3)：後半グループ	まとめた内容を発表する。	□
第14回	映画産業について	映画産業の歴史、現状と課題などを学ぶ。	□
第15回	振り返り	講義全体の振り返りもしくは小テストを実施する（受講者数により変わります）	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義の予習・復習および発表準備などを各回あたり4時間程度行い、知識を定着させる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

発表はその都度講評する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	レジャー産業に関する理解を深め、説明できる

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験(40%)は、プレゼンテーション（20%）および小テスト(20%）です。ただし、受講者数が多く発表に時間がかかる場合は小テストは実施せず、プレゼンテーション（40%）で評価します。その他(60)は、授業のまとめのレポートや授業への積極性等で評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		